

第1章 鎌倉市の都市特性と現況解析 及び課題

1-1 鎌倉市の都市特性

1-2 緑の現況及び特徴

1-3 現況解析と計画に向けての課題



1-1 鎌倉市の都市特性と概況

1) 都市特性

鎌倉市は、神奈川県南東部の三浦半島の基部に位置しており、市域面積は39.53km²である。

この一帯は温暖な気候と山・海の豊かな自然に恵まれた土地であり、古代より人々の生活が営まれていた。

鎌倉が歴史の表舞台に登場するのは中世期で、源頼朝がこの地に幕府を開いた建久2年（1192年）以降、鎌倉はわが国の政治・文化・経済の中心地として約150年にわたって繁栄した。

頼朝がこの地を選んだのは、鎌倉城と呼ばれる天然要害の地であったこと、古東海道が鎌倉を通っていたこと、父祖縁故の地であったことが大きな背景として挙げられる。

北条氏の滅亡後は次第に衰退し、江戸期には史跡・名勝地として観光の対象となるほかは静かな農漁村であったが、明治期に入ると鎌倉の海が良好な海水浴場として広く知られるようになり、横須賀線や江ノ電も開通したことなどから、観光地・保養地として多くの文人・文士が住み、観光客が訪れるようになった。

鎌倉市の市制施行は昭和14年であり、その後昭和23年になり大船町と深沢村が合併し、現在に至っている。

昭和30年代から40年代にかけて、鎌倉市は首都圏への人口集中の影響を受けて急激な都市化が進行し人口が急増するが、昭和50年代以降は流入人口の減少や核家族化の進行、出生数の低下等に伴って人口の伸びも鈍化し、平成期に入ると減少に転じて平成7年10月現在の人口は170,319人となっている。

こうした時代の流れの中で、鎌倉市の都市構造は大きく変化したが、今なお都市空間の中に古都の歴史的遺産とそれを取り巻く豊かな自然を色濃く残しており、首都圏のオアシスとして多くの人々を引きつけている。

このような鎌倉市の都市特性は、次のように表される。

①自然の豊かさ

- ・起伏に富んだ地形、身近な山・海の自然をもつ。

②歴史性の豊かさ

- ・わが国を代表する古都の歴史的遺産と、それを取り巻く固有の歴史的風土をもつ。

③市街地の構造

- ・鎌倉、大船の2極構造をもつ。
- ・歴史的風土保存区域を擁する鎌倉地域と、それを取り巻く地域の性格の異なる2つの市街地をもつ。
- ・地形によって制約を受けるコンパクトな市街地構造をもつ。

④多面的な性格をもつ都市

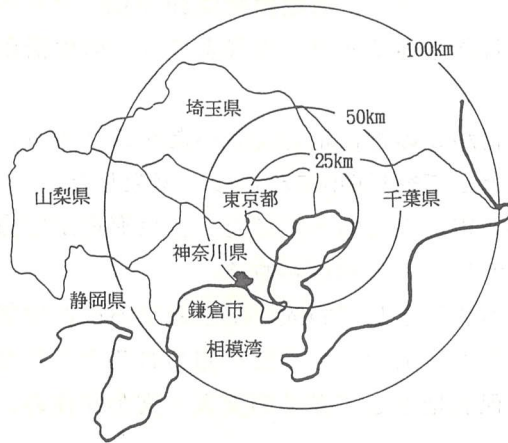
- ・歴史文化都市、国際観光都市、海浜レクリエーション都市、良質な居住環境都市等の多面的な性格をもつ。

⑤市民像

- ・わがまちに対する誇りと高い意識を有する市民をもつ。

2) 都市の概況

●鎌倉市の広域的位置



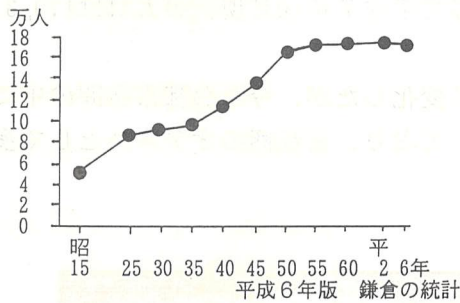
●市域の変遷と面積

年月	事項	市域面積
昭和14年11月	市制施行〔鎌倉町と腰越町が合併〕	1,875ha
23年1月	深沢村を編入	2,658
23年6月	大船町を編入	3,946
36年10月	藤沢市との境界変更	3,952
42年10月	腰越漁港築造による埋立	3,953
58年10月	建設省国土地理院公表「全国都道府県市区町村別面積調」	3,953

平成6年版 鎌倉の統計

●人口の推移と構成

市域人口 170,319人 (平成7年10月現在)



●都市計画区分

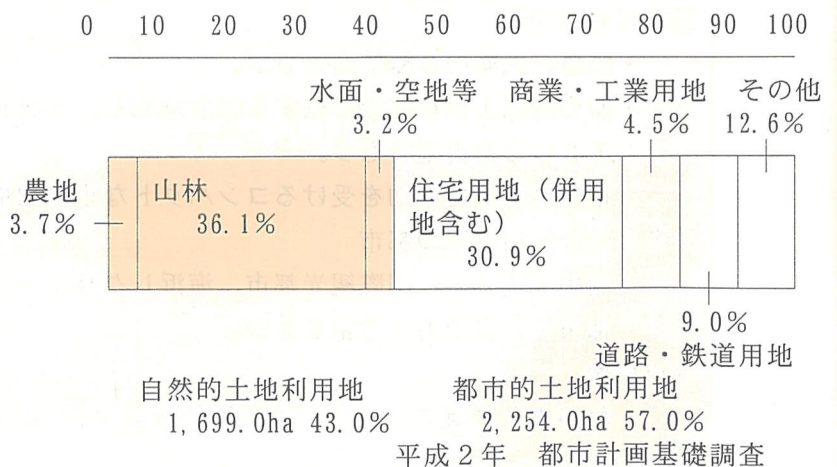
年令	構成比	区分	面積	比率
0～14才	13.0%	市街化区域	2,571ha	65.0%
15～64才	71.5	市街化調整区域	1,382	35.0
65才以上	15.5	都市計画区域	3,953	100.0
計	100.0			

平成4年12月 神奈川県告示
平成6年版 鎌倉の統計

●地域の構成

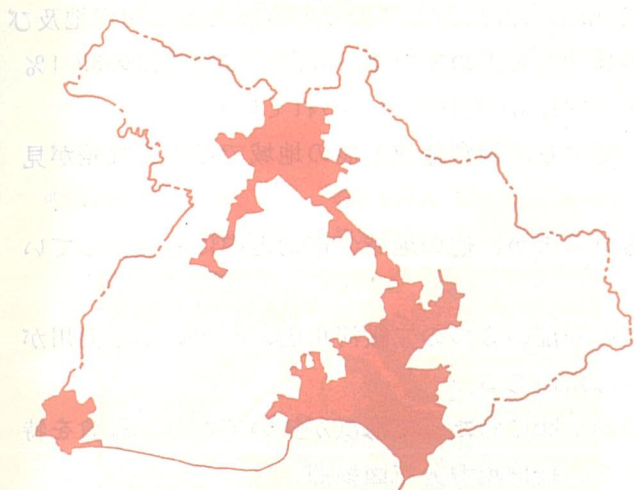


●土地利用

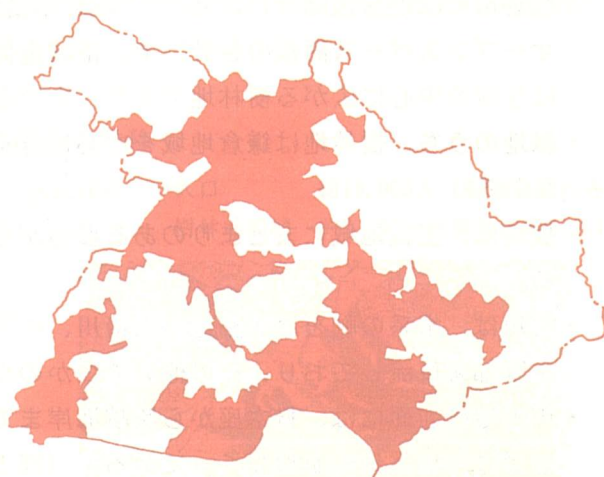


●市街化動向（人口集中地区の変遷）

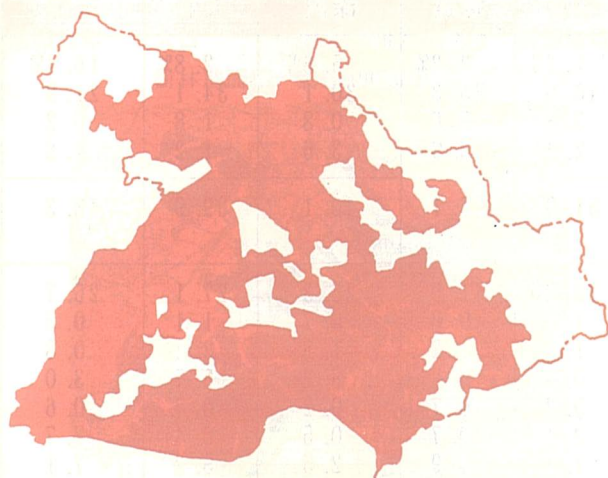
昭和35年（人口集中地区面積840ha）



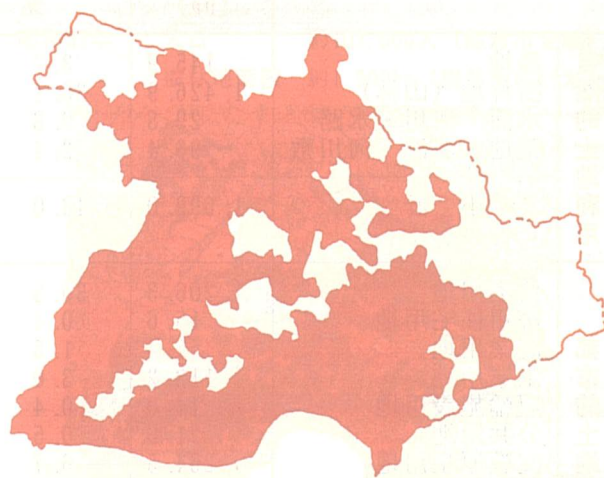
昭和45年（人口集中地区面積1,170ha）



昭和55年（人口集中地区面積2,720ha）



平成2年（人口集中地区面積2,760ha）



注) ・昭和35年、45年、55年人口集中地区面積は、平成2年都市計画基礎調査集計データ集、神奈川県都市部都市政策課による。

・平成2年の人口集中地区面積は、平成5年版鎌倉の統計による。

人口集中地区とは、国勢調査調査区を基礎単位とし、市区町村の境界内で人口密度の高い調査区（原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上）が隣接して構成する地域をいう。市街化動向の指標として用いられる。